

# 「LoY大賞受賞記念シンポジウム」会場からの質問に対する回答

| No. | 質問   | 回答  |
|-----|--|---|
| 1   | 【エル・ライブラリー】<br>資料の所蔵スペースが無く<br>なったときの保管・管理方法 | 会場でも簡単に答えましたように、方法は二つ。「収納スペースを増やす」「資料を減らす」。この二つともを実行するかどちらかを実行するか、です。書庫を増やすのは今年度行いましたが、そのための家賃と共益費の負担がづらいです。エル・おおさか(大阪府立労働センター)内にこれ以上借りられる部屋もなさそうなので、今より書庫を増やすのは難しくなりました。そして資料を減らす方法は、当館以外の大阪の公共図書館が所蔵しているような一般的な資料は除籍していく、ということです。書庫問題は頭痛のタネです。いい知恵があれば教えてください。                        |
| 2   | 【エル・ライブラリー】<br>今考えている新しい取組                   | フリー百科事典「エルペディア:大阪社会運動史事典」を開設します。2018年度中の公開めざして、今年度は項目を書き溜めていきます。これはWikipediaに倣うものですが、Wikipediaのように「誰でも編集できる」という方法をとらず、一定のレベルを保つこと、学術論文へも引用・転載できるような精度を保证するものとします。このエルペディア構想は市民の力を借ります。当館の講座『大阪社会労働運動史』を受講されている市民のみなさんに執筆してもらい、早稲田大学の篠田徹先生が監修します。ほかに、ボランティアで『大阪社会労働運動史』の執筆者にも加わっていただきます。 |
| 3   | 【ことば蔵】<br>交流フロアを作った理由                        | 誰でも気軽に訪れることができる「公園のような図書館」を実現するために、来館者が必ず通る1階に交流フロアを新設しました。交流フロアを活用して様々なイベントを開催することで、本や人との出会いを演出するとともに、中心市街地活性化の役割を担っています。  |
| 4   | 【ことば蔵】<br>イベント実現へのプロセス<br>職員の関わり方            | 発案者と運営会議参加者、職員の3者がアイデアや人脈をシェアし合ってイベントを実現させています。職員は必要に応じて関係団体との調整やイベントの広報(市報・プレスリリース・HP等)などを行っています。また、点(市民)と点(市民)をつなげて線(企画)にするプロデューサーのような役割も果たしています。   |
| 5   | 【ことば蔵】<br>職員の人事異動<br>市民との良い関係の作り方            | 人事異動により、開館当時のメンバーはほぼ入れ替わりましたが、今まで築き上げてきた市民との信頼関係により、問題なく事業を継続しています。現在のような市民との関係を構築するには、市民のアイデアを実現させる職員の「熱意」と「スピード」が重要だと思っています。  |
| 6   | 【ことば蔵】<br>図書への運動方法<br>運営会議の失敗例               | 「読書やことばにつながる」ということを企画のルールの一つにしています。中には、本につながらない企画もありますが、イベント時に関連本を展示するなどして、読書へのきっかけを作るような工夫をしています。また、営業行為に近い企画があった時は、運営会議参加者が質問するなどして、お互いにチェックし合う体制が整っています。   |
| 7   | 【ことば蔵】<br>図書の選定基準                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容・著者・出版社の信頼性、専門性、正確さ</li> <li>・類書の所蔵状況と利用頻度</li> <li>・価格</li> </ul> などをもとに、週に1回、市内全館の職員が集まり行われる選定会議で選書しています。   |